

2009年3月18日

報道関係各位

肥満に伴うメタボリックシンドロームの予防に関する研究 京都大学の研究が農芸化学会 2009 年度大会 のトピックスに選定

- 話題のローズヒップポリフェノールに脂肪の代謝改善効果 -

森下仁丹株式会社

京都大学(京都府宇治市)大学院農学研究科河田教授らの研究で、ローズヒップに含まれるポリフェノール(Tiliroside:ティリロサイド)に、肥満モデル動物における脂肪代謝改善効果が明らかとなりました。この研究は、日本農芸化学会 2009 年度大会(2009年3月27日~3月29日、福岡市)のトピックスに選定され、3月29日に大会会場にて研究結果を発表致します。

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中央区/代表取締役:駒村純一)は、2006年3月30日公表の通り、京都薬科大学(京都市)薬学部吉川教授らとの共同研究で、ローズヒップエキスに抗肥満活性を見出し、2006年の日本薬学会にて発表しています。今回の京都大学における研究にも当社からローズヒップエキスやローズヒップポリフェノール(Tiliroside)を提供しています。

尚、日本コカ・コーラ株式会社(本社:東京都渋谷区/代表取締役社長:ダニエル・H・セイヤー)へのローズヒップポリフェノール(Tiliroside)を含むエキスの供給が決定しています。

【発表の概要】

演題

「肥満モデル動物におけるTilirosideの脂質代謝改善作用」

発表者: 京都大学 後藤剛、高橋信之、李周容、寺南亜紀、大山夏奈、船越こずえ、河田照雄

研究のトピックス性

近年、深刻な社会問題であるメタボリックシンドロームの予防を目的とした研究開発が盛んに行われているが、骨格筋での脂質代謝を明らかにした例は殆どありません。本研究では、食品として用いられているローズヒップに含まれる Tiliroside が、骨格筋における脂肪酸酸化を促進させ、中性脂肪蓄積量を低減させることを明らかにし、Tiliroside を含む食品の積極的な摂取は、メタボリックシンドロームの予防に有用であることが示唆されました。

研究の背景と目的

Tiliroside には、抗酸化作用などの機能性が報告されていますが、肥満モデル動物を用いた代謝異常症に関する報告はありません。本研究では、肥満モデル動物を用いて、Tiliroside が代謝異常症の発症に与える効果を明らかにすることを目的としました。

研究の成果

Tiliroside は肝臓に加え、インスリンによる糖の取り込みにおいて最も重要な骨格筋において、脂肪酸酸化を亢進し、肥満に伴う代謝異常症(メタボリックシンドローム)発症の予防効果を有することが明らかとなりました。これによって、世界的な健康問題となっているメタボリックシンドロームの予防に Tiliroside を含む食品が有用である可能性を示したことは社会的にも重要であり、科学的エビデンスに裏打ちされた新たな機能性食品の作出が期待される。

<用語説明>

インスリン抵抗性;組織におけるインスリンに対する感受性(インスリン感受性)が低下し、インスリンの作用が十分に発揮されない状態。メタボリックシンドローム発症に大きく関わっていると考えられている。

Tiliroside;ローズヒップに含まれるポリフェノールの一種

【特許関連】

今回の骨格筋における脂肪代謝促進に関する特許は、2009年3月4日に出願致しました。また、ローズヒップ抽出物の脂肪代謝促進剤およびTiliroside(ティリロサイド)を用いる脂肪代謝促進剤・抗糖尿病剤は、森下仁丹の保有特許です。

特許第 3790767 号 脂肪代謝改善組成物

特許第 4229942 号 脂肪代謝促進剤または抗糖尿病剤

【本件についてのお問い合わせは】

森下仁丹株式会社 研究学術部 TEL072-800-1040 FAX072-896-2900

【リリースについてのお問合せは】

共同 PR 株式会社 担当:長尾・村山・林 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-0316